



## 中国の流行語『内卷(nei juan)』 ～教育の姿を通して～

北陸銀行 国際部  
上海駐在員事務所

### 1. はじめに

近年、中国では『内卷(nei juan)』<sup>※1</sup>という言葉が流行しています。これは中国国内での競争が激化している様子を表す言葉です。この『内卷』は、学校内、職場内など社会生活のあらゆる場所で発生し、多くの人々が振り回されています。

現在都市部で生活する20代から40代の人々の大部分は農村部の出身であり、より良い生活を送るため自ら努力を重ねて都市部の戸籍を取得してきた人々です。そのため元々都市部で生活をしている人より競争心が強く、職場での人間関係にとどまらず、子供の教育にも及んでおります。「スタートラインで負けたくない」、「自分のような貧しい経験を絶対に味わわせたくない」、「苦勞して手に入れた今の幸せな生活レベルを落とすたくない」という思いが強く、最近では生後数か月から熱心な教育が開始されてもいます。

今回はそうした子供の教育に関わる親達の姿を例に、『内卷』の様子をご紹介します。

※1元々はinvolutionという社会学の専門用語。簡略化して言えば、皆が頑張る以上自分も頑張らねば追いつけないという考えの下、限られる資源の中で競争が競争を生み内部抗争が生じる状態。

### 2. 子供の成長に伴い過熱する内卷

#### (1) 生後

生後数か月で親同伴の幼稚専門塾に入り、遊びを通して学ばせることから始まり、1歳になると速記や簡単な英語の勉強を始めます。

## (2) 幼児期

子供が少し大きくなると、幼稚園の選択が始まります。急速に増加する都市の人口に比べて公立幼稚園の開設スピードは大幅に遅れている一方で、私立幼稚園は雨後の筍のように開設されています。

「二か国語教育」や「貴族養成」など様々な特色を掲げることで費用は公立よりもはるかに高くなっており、年間で20万元(約340万円)かかることも一般的です。

中国の会社には子女教育手当はなく、親の負担は大きなものとなります。



【ショッピングモール内の英語教育施設の様子  
:事務所撮影】

## (3) 小学校

小学校入学後すぐに担任教師が作成した保護者用のウィチャット・グループ(LINEのグループのようなもの)に参加しなければなりません。そこでは毎日の宿題、毎週の試験成績、子供の在校状況等が確認できる上、担任教師や各担当教師からの色々な指導・要求があり、親vs教師あるいは親vs親の『内巻』が起こります。

## (4) 中学校

中学校への進学時には子の学業以外に親の戦いがあります。入学以前からその戦いは始まり、子を学区外の優秀な公立中学校へ入学させるために、親はその中学校に近いマンションを購入する必要性に迫られます。そういった進学校の学区内にあるマンションは「学区房」と呼ばれ、一般の不動産価格の1.5倍~2倍となる事態も発生しています。<sup>※2</sup> 中央政府は今年からこの資産背景がそのまま進学実績に直結しかねない不公平を改善すべく、北京をはじめ一部の大都会・省では優秀な学校への入学を抽選制にしました。これに倣って、有名私立中学でも同じく抽選制に変更されました。中国では9年制義務教育制度ですので、基本的にすべての子供が中学校までの教育を受けることができますが、上記のようにより質の高い教育を求めて『内巻』が引き起こされています。

## (5) 高校

中学卒業後もさらに苛烈な高校受験戦争が待っています。驚くべきことに中国では高校への進学率は低く、大都市の上海でも50%、人口の多い省でも40%程度です。大学進学よりも高校入学受験のほうが緊張感が高く、家庭内に中学三年生の子供がいると災厄の時期とまで言われます。

※2学区内と認められるためには、学区内に不動産の所有が必要となる。

### 3. おわりに

上記の通り、子供が生まれれば親と子は絶え間ない競争にさらされ、中国国内での内部抗争の様相を呈していきます。今年の6月1日には「三人っ子」政策が政府から発表されましたが、その政策を喜んでいる人はほとんどいません。日々『内巻』で戦っている大都会の親たちは、一人だけでも育てるのに精一杯である状況の中、三人もの子供を育てることを考えるだけで目眩がします。

以上

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。  
記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださるようお願いいたします。

**ほくりく長城会**

**長城メール**

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局  
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F  
(株)人材情報センター内  
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565  
E-mail: info@chojo-hokugin.jp